

被災地を語る  
三島でシンポジウム

宮城県石巻市と福島県いわき市の東日本大震災被災者が被災地の現状を語るシンポジウムが11日、三島市内で開かれた。NPO法人「グラウンドワーク三島」の主催で、約30人の市民が参加した。

いわき市立植田東中学校の丹野秀一朗教諭は、震災がれきの撤去について「いわきでは、小学校の校庭にがれきを置いているのが現状だ。がれきがなくなれば復興はありえない」と訴えた。

また、昨年12月に三島、御殿場市内でコンサートを開いた石巻少年少女合唱隊の千葉美貴子代表は、被災直後の生活の困窮ぶりを赤裸々に紹介。「子どもたちにつらい思いをさせた」と語り、参加者の涙を誘った。

【野島康祐】